

1 和田城址 **和田義盛**

義盛の居館があったところです。和田は三浦半島有数の穀倉地帯で、領民を守り、水田を管理するにも地の利を占めていました。合戦にのぞんでこの地から多くの兵士が出陣し、食料が戦陣に送られるなど重要な役割を果たしていたところです。

三浦市初声町和田3037

2 和田義盛旧里碑 **和田義盛**

和田義盛は、鎌倉健府の大立物で、最高職の侍所別当に任ぜられました。北条氏と対立するようになり、建保元年(1213年)由比ヶ浜で北条氏に滅ぼされてしまいました。この石碑は義盛の在所と思われるこの地に、大正10年3月に建立されました。

三浦市初声町和田2589-2

3 神明白旗神社 **和田義盛**

祭神：天照大神、和田義盛
神明社は、のちに白旗神社に合祀されたもので、神明を冠につけてこれを神明白旗神社と呼んでいます。弘長3年(1263年)和田の郷氏がこの地に社殿を設けて白旗神社と称して祭祀をあつくりてきたものです。

三浦市初声町和田1746

4 天養院 **和田義盛**

安置されている薬師如来像は、もとは和田義盛が館の鬼門を守護するために建立した安楽寺に祀られていましたが、廃寺に伴い天養院に移されました。和田義盛の護持仏で、行基の作と伝えられています。寺に残る和田義盛公の位牌は、建暦3年(1213年)のものです。

三浦市初声町和田1669

5 光念寺 **和田義盛**

1190年、和田義盛による開基・創建とされます。本尊は阿弥陀仏です。平家追討のため挙兵をするも大敗し、海上へ逃げる際、危機を救ったのは龍神であったと信じた義盛は、発心して笠籠弁財天をこの地に祀ったと伝えられています。

三浦市三崎1-18-1

6 海南神社 **源頼朝**

祭神は藤原資盈公で、天元5年(982年)に社殿を造営し、その後三浦総鎮守となりました。境内には源頼朝の手植えと伝わる樹齢800年の大銀杏があります。毎年1月15日には郷土芸能「チャッキラコ」(ユネスコ無形文化遺産)が奉納されます。

三浦市三崎4-12-11



市内の移動方法は選択肢がいっぱい！

- ◎レンタサイクル
- ◎京急バス
- ◎レンタルモビリティ

MIURA
みうら
レンタサイクル

my-mo
ミューモ

電動キックボード

7 見桃寺(桃の御所) **源頼朝**

建久の昔(1190年代)、源頼朝は三崎の地に三つの御所を設けました。桜、桃、椿の御所がそれで、見桃寺は「桃の御所」のあったところといわれています。また、見桃寺は、三浦市内に点在する「三浦七福神」の一つ、桃林布袋尊として数えられます。

三浦市白石町19-2

8 本瑞寺(桜の御所) **源頼朝**

平安以来の武家の名門、三浦一族の菩提寺。本瑞寺は「桜の御所」のあったところです。この地に多数の桜樹を植え、合わせて城ヶ島の桜も望見するといった観桜の宴をしばしば催し、二代將軍頼朝、三代將軍実朝もここを訪れています。

三浦市三崎1-19-1

9 大椿寺(椿の御所) **源頼朝**

大椿寺は「椿の御所」のあったところです。当時、この御所には頼朝の側室が住んでおり、庭内は椿の花で埋まるほどであったそうです。頼朝の没後、尼となり「妙悟尼」と称して、三十余年をここに過ごしたと伝えられています。

三浦市向ヶ崎町11-1

10 福寿寺 **三浦義村**

開基は三浦駿河守義村で、正治2年(1200年)3月建立とされています。御本尊は聖観世音菩薩で、寺宝として、三浦義村が愛用したと伝えられている鞍、鎧、脇差等が保存されています。

三浦市南下浦町金田2062

11 三浦義村の墓 **三浦義村**

三浦一族の中でも隆盛を極めた三浦義村は、自身が開基となった福寿寺に近いこの場所に墓所を置くよう望んだといわれています。関東大震災の折には、義村の墓石が崖下の海まで落ちてしまいましたが、地元の人々によって再建されました。

三浦市南下浦町金田2013

12 油壺・新井城址 **三浦一族**

戦国期の「新井城合戦」のあった辺りです。三浦義同(道寸)は、ここで3年もの持久戦を耐え、最後は自害して、三浦一族は2度目の滅亡にあいます。その血が海面に油のように浮いていた様子が「油壺」の由来との説もあります。

三崎町小網代1024付近

ゆかりの地の近隣観光スポット

A 黒崎の鼻 くろさきはな みうら景観資産

相模湾に面した岬。特徴的な地形を有し、周囲に人工物がなく、藪を抜けると静かな岬が姿を現します。



※駐車場はありません。

C 油壺温泉(ホテル京急油壺観潮荘) 京急油壺温泉キャンプパーク あぶらつぼおんせん けいきゅうあぶらつぼかんちょうそう

小網代湾一望の絶景露天風呂。美肌効果の高い天然温泉です。油壺温泉の隣には海と夕日と富士山が同時に楽しめる唯一無二の絶景を誇るキャンプパークが併設しています。



三浦市三崎町小網代1152
046-881-5211



油壺温泉 キャンプパーク

B うらりマルシェ うらりマルシェ

1階の「さかな館」では三崎のマグロや地魚をはじめ水産加工品、惣菜など、2階の「やさい館」では農産物や季節の野菜ジュースなどが購入できる産直センターです。



三浦市三崎5-3-1
046-881-6721



D 金田漁港 かねたぎよこう

東京湾の豊富な魚介類が水揚げされる金田漁港。金田海産センターでは、新鮮な魚や野菜などを販売する朝市が開催されます。(毎週日曜日)



三浦市南下浦町金田2020-5
046-886-0525



金田湾朝市

北条 鎌倉 義時

~13人の重臣~



鎌倉市観光協会オリジナルキャラクター
提供：鎌倉市観光協会

鎌倉殿と13人の重臣たち 三浦市内ゆかりの地



和田義盛

平安末期、武士の台頭により、東国に多くの氏族が誕生します。

その一つ、源家累代の家人となる『三浦一族』の始まりは、前九年の合戦で源頼義に従い、その恩賞として1063年三浦の地を与えられ衣笠城を築いたとされる三浦為通(みうらためみち)です。為通の孫義継(よしつぐ)以降は、源義家の「義」の通字を貰い、義明、義澄、義村と「義」をつけ源氏との絆を深めていきます。

また、三浦義明の孫として生まれ、関東御家人を統率する初代の侍別当(後の侍所別当)となった和田義盛の本拠地も三浦市にあります。

源頼朝の手植えと伝わる樹齢800年の大銀杏がある『海南神社』、源頼朝も花を愛でに訪れたといわれる大椿寺(椿の御所)、本瑞寺(桜)、見桃寺(桃)の3寺院、『頼朝三崎三御所』も三浦市内にごさいます。鎌倉時代とのつながりを感じられる三浦市へ、時間旅行に旅立ちませんか。

歴史探訪～三浦市ゆかりの重臣・和田義盛と弓矢～



毎年5月最終日曜日には、三浦一族の鎮魂祭「道寸祭り」が開催。三大古弓馬術の「笠懸」が披露される。(荒井浜海岸)

文：みうらガイド協会

父は杉本義宗といひ、三浦一族の惣領三浦大介義明の長子で、鎌倉の杉本親音で有名な杉本に城を構えていました。母は玉という遊女と言われております。父義宗は1163年安房国(千葉県)で姻戚の安西氏の領地争いの加勢に房総へ渡って、敵方の矢を受け、それがもとで亡くなります。本来なら長男ですので宗家を継ぐはずですが、母の素性が卑なるということで、惣領は義明次男の三浦義澄が継ぎ、義盛は和田に領地を与えられ和田氏を称します。実は、義盛は弓矢が凄いのです。義盛の遠矢として有名な場面が「平家物語」で描かれております。抜粋ですが見てみましょう。

時は壇ノ浦戦の最中のことです。「兩軍が互いに海と陸から兵を進め、戦いはたけなわ、渚に控えた和田義盛は、三町(320m)ばかり沖に浮かぶ平家の軍船めがけて自慢の矢を放ち、その矢を射返せと手招きする。平家がその矢を拾い上げてみると、標準より一束(いっそく)長い十三束で義盛の名が刻まれていた。」当時の弓矢の長さは指一本の幅を一伏(ひとふせ)、四本の幅を一束と数えていました。現在の弓道では、的までは28mをさうです。また、アーチェリーでの的までの距離は70mですから、義盛の矢の距離が平家物語の誇張であったとしても剛腕であったということでしょう。

頼家の代となっても挙兵以来の宿老として十三人合議制のひとつとなり幕政の重鎮でした。

発行：三浦観光情報発信協議会(京浜急行電鉄株式会社、一般社団法人三浦市観光協会、三浦市)
問合せ：三浦市観光協会(電話：046-888-0588、電子メール：info@miura-info.ne.jp)



三浦半島で遊ぶなら「三浦COCOON」におまかせ!

三浦半島からのあたらしいすごしかた提案